



けいとうまめ

石坂の鶏頭豆



明治末年、日本メソジスト吉原教会に山中笑さんという牧師がいました。彼は号を共古といひ、「吉居雑話」と題する民俗学的な著作をまとめました。

今回は県立富士東高校の加藤善夫先生のご協力を得て、「山中共古調査ノート」の中からのお話しです。

弘法大師が通りかかって

ある秋の日、名僧弘法大師が旅の途中、石坂を通りかかりますと、農家の老婆が大声で老夫を罵っているのが目にとまりました。

「いったいどうされたというのじゃ」「これはこれはお坊様、まあ、ちよつくら聞いてください……。」

老婆の話すには、今年に限ってどうしたわけか、老夫は畑に豆をまくのを忘れて、鶏頭の種だけまいてしまったというのです。

「みてくだせ工。豆は一つぶも収穫されず、これでは味噌も何んにも作ることも出来ねえです。」

なるほど畑は一面真赤な鶏頭の花が見事なほど咲きほこっていました。大師は静かに笑って老夫婦に向い、

「これに鶏豆という豆が出来るから今に見ていなさい。」
と言って立ち去りました。

それからというもの、この石坂には鶏頭豆という大豆に似た豆が収穫されるようになったということです。

この豆は1本の木から2合(0.36升)の豆がとれましたが、いつの間にか栽培する人も絶えてしまったようです。

この欄で昔話しを語ってくれるお年寄りを探しています。あの人を知っていそうだという情報でも可。連絡先は市役所広報広聴課 ☎51-0123 (内線528)

市立博物館 展示物 紹介

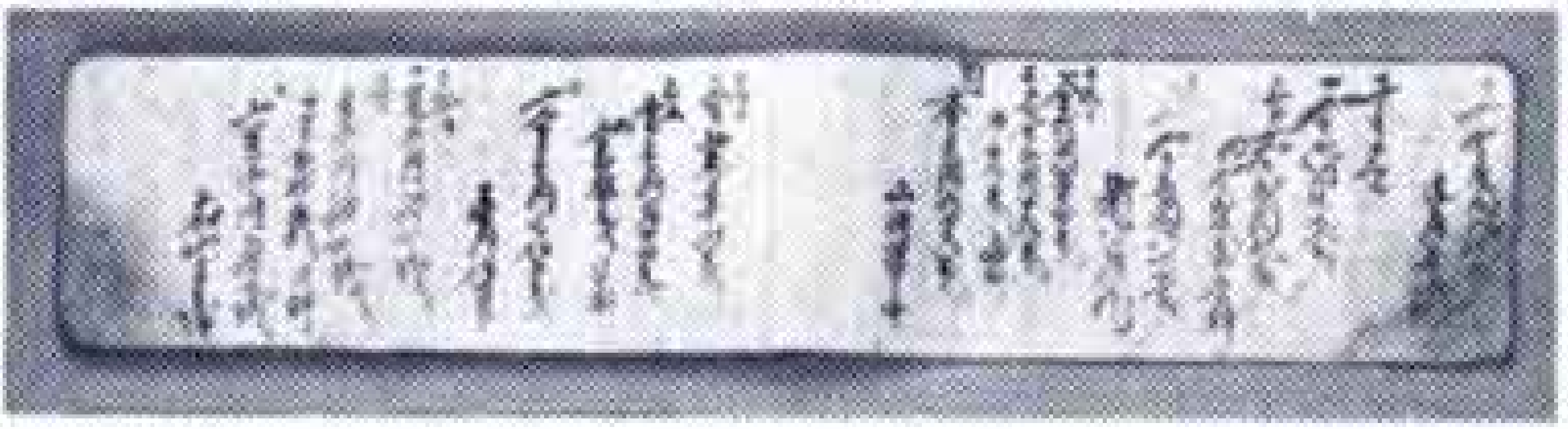


富士川の木橋

富士川に仮橋が作られたのは明治9年。現在の緑地公園のあたりです。写真は明治20年ころのもので、簡単な木橋でした。ここを通行するときは、橋銭という通行料が必要でした。



橋銭日記帳



お見逃がしなく・切迫る 市立博物館の第2回特別展

—吉原宿所替300年記念—

街道と宿場

12月15日まで

「ごみのない、きれいなまちづくり。これは富士市をきれいにする市民運動推進連絡協議会が、みどり豊かで清潔な住みよいまちづくりの願いをこめて、市役所前、富士駅前、入山瀬駅前等に設置した三角塔に書かれているスローガンです。私達日本人は、清潔を好む民族として有名ですが、道路や公園など「公の場」へごみを捨てたり、よごすことには何の恥じらいもないようです。富士山にふさわしいまちづくりは、ごみのないきれいなまちづくりが欠かせない条件です。

—すすめよう ごみの減量・資源化—